

(3) 課題解決のための手法の検討にかかる意見のまとめと要約について

資料3

テーマ②：答申の作成に向けた「課題解決の具体的手法・今後のあり方」

同様の意見・テーマ	主な内容	類似回答数
次世代(若者・学生)の参画と学校連携	・学生を「ミドルリーダー」として位置づけ、チラシ配布や地域学習として学校と連携 ・企画段階から話し合い、受付・司会や多世代サポート、学生×地域の共同体験ブース運営などで役割を明確に担ってもら ・若者の参加が親世代の参加を促し地域活性化へ繋がる	4
多文化共生のハードルと多言語支援・交流	・「言葉を介さなくてもできる交流(料理・音楽等)」でも実際は言葉が必要である ・市役所等からの多言語対応スタッフ派遣の要望、学生チームを交えた外国人対応	4
選択と集中・実現しやすい実績づくり	・課題が多く優先順位が曖昧なため、「まずは何を実現しやすいか(実績を積む)」を明確にし、集中的・段階的に解決していくべきである	2
客観的データや手法を用いた分析	・QC7つ道具やPDCAによる原因の特定 ・具体的数値や実態データの提示による見える化 ・防災×アウトドア・スポーツ・ITなどを掛け合わせた多角的な手法の検討	4
自治会のメリットの再確認	・加入率低下やリーダー高齢化を受け、入るメリットや安心の仕組みを可視化する	2
市民センターの「居場所」づくり	・自由に出入りできる雰囲気の醸成、気軽なコミュニケーションや繋がりを深める空間	2
成功事例の横展開・継続アンケート	・防災連絡協議会の広域化 ・放課後子ども教室の他地区参考、課題解決の継続	2
行政サービスの利便性向上	・期日前投票所の設置 ・地区センターでの苦情・要望の受付	1